資料１－１

オープン･イノベーションに対応した知財戦略の在り方について（概要）

２００８年３月13日

知的財産による競争力強化専門調査会
会長　　相澤　益男

グローバル化・情報化の進展

グローバル化の進展に伴い、内外のリソースを地球規模で活用して技術開発から事業化まで行うオープン・イノベーションが進展

○競争の激化
（製品サイクルの短縮化、技術開発コストの増大）

○潜在的市場の拡大
○外部リソースの利用可能性の増大

→ **オープン・イノベーションの進展**
（内外のリソースを適切に活用するイノベーション）

オープン･イノベーション実現のための条件

オープン・イノベーションの実現には、「企業の戦略的な知財の活用」とそれを支える「基盤の充実」の≪好循環≫が不可欠

企業の知財戦略
（戦略的な活用により知財の価値を最大化）

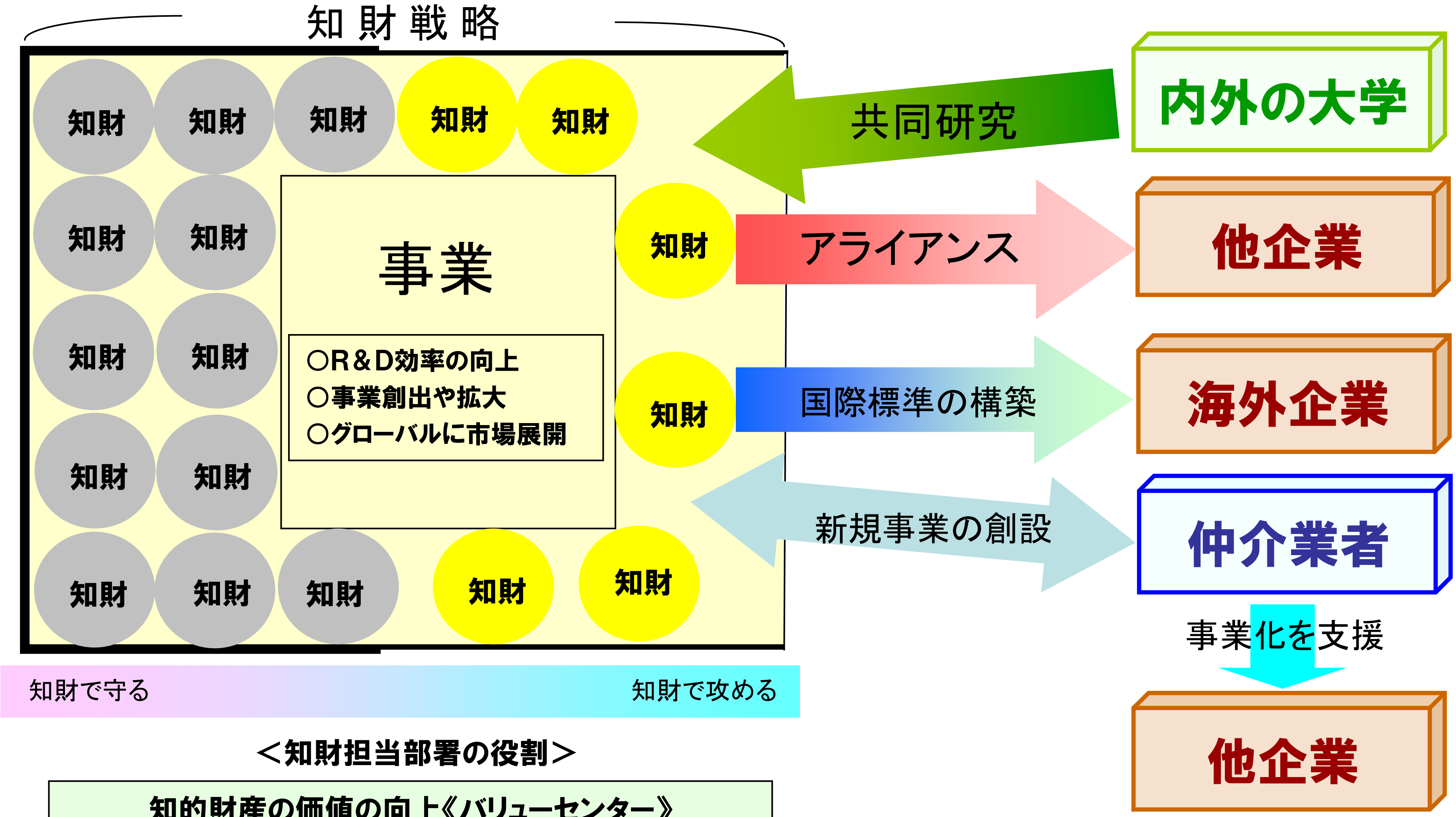
好循環

オープンイノベーションを支える基盤

①情報の提供基盤	学術･技術情報の利用環境 情報技術の利用環境
②良質な技術シーズ	大学からの良質な知財の供給
③技術移転等の仲介	知財を事業化する総合プロデュース機能

企業における戦略的な知財の活用

高度な知財戦略の構築＝「攻め」と「守り」の的確な組み合わせ
- **知財を外部との積極的なやりとりで「攻め」に活用する戦術**
- **知財を自己事業の「守り」に活用する戦術**



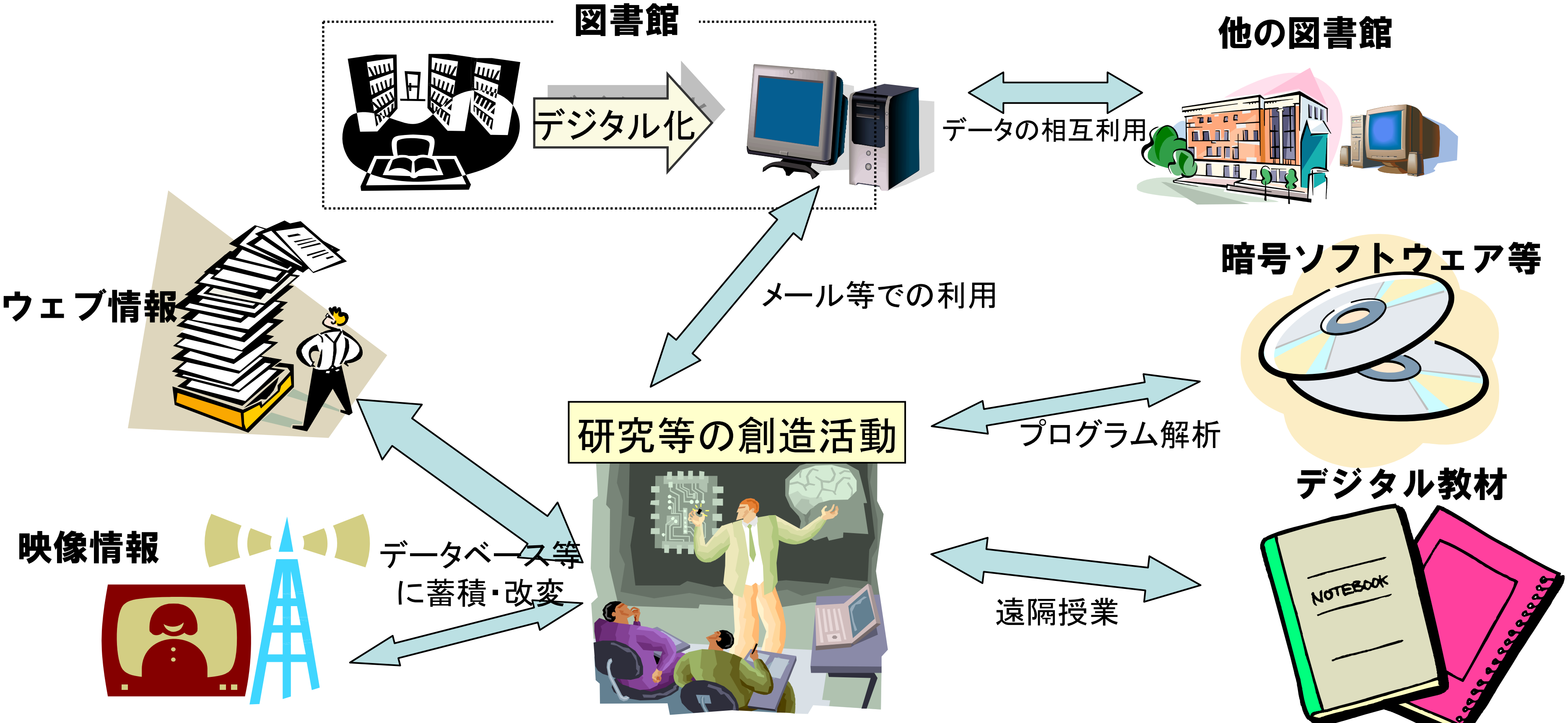
＜知財担当部署の役割＞

知的財産の価値の向上《バリューセンター》

オープン･イノベーションを支える基盤の整備（1）

①外部情報を利用しやすい創造環境の整備

- 新たな価値の創造には、情報ネットワークを最大限に活かした学術・技術情報の利用等が不可欠。しかし、著作権法を始めとする知財法制上の制約が存在
- このため、権利者を適切に保護しつつ、知財法制の在り方につき早急に検討着手



※ これらの情報収集等の過程で生じる複製･改変等には個別に権利者の許諾が必要

オープン・イノベーションを支える基盤の整備（2）

②大学からの良質な知財供給の拡大

大学知財本部・TLOの機能強化により、大学の知財創造の上流域から成果の活用に至るまで「総合的知財戦略」を策定・実施

今後の大学知財本部・ＴＬＯ
＜より上流域・下流域へ＞

大学知財本部・ＴＬＯ
＜従来の領域＞

パテントマップの作成（未開拓領域の調査）
特許情報の提供

出願戦略の策定
迅速な特許化可能性レビュー

特許ポートフォリオ（周辺特許を含む）の形成
権利のブラッシュアップ

ビジネスプランの策定
企業との交渉

大学における知財創造プロセス

研究テーマの設定 → **研究** → **論文発表** / **特許出願** → **特許権の取得・維持・管理** → ライセンス → 企業

オープン・イノベーションを支える基盤の整備（3）

③知財流通市場の活性化～　「総合プロデュース機能」の強化

知財と事業を一体的かつ総合的に評価し、他の外部リソースを導入して新事業の立ち上げまで関与する「総合プロデュース機能」を強化

大企業
（事業化力はあるがシーズ不足）

中小・ベンチャー
（技術力はあるが事業化資源が不足）

大学・研究機関
（シーズの宝庫だが、ニーズ情報が不足）

ファンド
（投資先情報の不足）

総合プロデュース機能

- ・将来の市場ニーズの把握
- ・事業の企画・評価
- ・他のリソースの動員
- ・知財の付加価値の増大（ポートフォーリオ構築等）
- ・資金調達
- ・ライセンサーとライセンシーの利益調整

知財を活用した新規事業の創出

グローバルな知財戦略の促進

企業等のオープン・イノベーションを支える知財戦略の海外展開を促進するため、次の施策を推進
①海外での権利取得の促進
②海外における事業活動の円滑化
③国際標準化などの技術の相互利用の促進

グローバルな知財戦略の展開

海外の権利取得の促進

- ●知的財産制度・出願様式の国際調和
- ●外国における早期権利化（特許審査ハイウェイ等）
- ●大学や中小企業の海外での権利取得の支援

海外事業活動の円滑化

- ●特許情報データベースにおける外国の特許情報の拡充
- ●海外における模倣品・海賊版対策の強化
- ●アジア諸国における知的財産に関する人材育成

国際標準化等の促進

- ●「国際標準総合戦略」の着実な実施
- ●能力検定制度の創設などの国際標準人材育成の支援